

# 平成21年度スジアオノリ養殖概況

加藤慎治

吉野川では例年どおり10月から天然採苗が行われ、養殖が開始された。漁期前半から大雨による出水があり、漁場が低塩分化したため、藻体の生長が悪く生産量が伸びなかった。また12月以降も低水温による生長不良のため低調な生産となった。生産量は漁期全体では豊漁だった昨年を大きく下回る生産となり、例年と比較しても少なめであった。

## 1. 人工採苗用の母藻の生産と配布

大津、川内、応神町、徳島市第一及び徳島市辰巳の各漁

協へ母藻（吉野川産広域温度対応株Y1124）を配布した。

## 2. 平成21年度漁期の共販結果

図1に平成21年度、20年度の徳島県漁連共販数量を、図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。平成21年度漁期の共販実績は数量60トン、金額4.4億円であった。漁期を通じて生産が振るわなかったため、記録的な豊作だった昨年度と比べ、共販数量が前年比60%となり、平均単価については高水準となった。

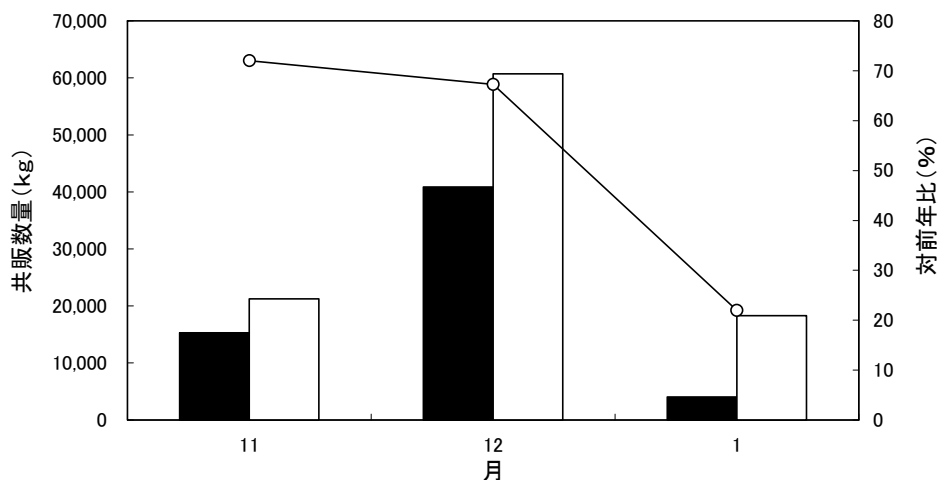


図1. 月別共販数量の推移。 ，平成21年度； ，平成20年度； ，対前年比

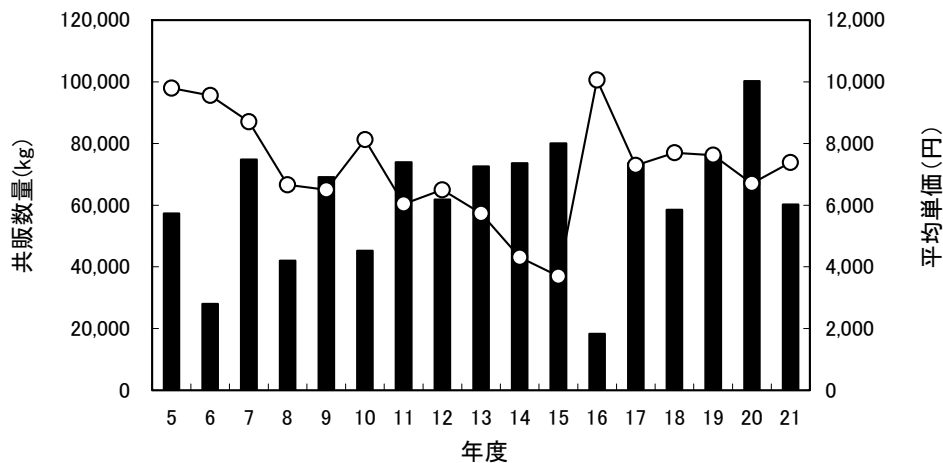


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販数量； ，共販単価